4-193-086-**01**(1)

スーパーオーディオCD プレーヤー

取扱説明書

SCD-XE800

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

使用上のご注意

設置場所について

- 次のような場所には置かないでください。
  ー極端に寒い所。
  ーチューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
  （チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- 機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。
- 機器上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。
- 火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

注意

この製品に内蔵されている光学機器のレーザー光を直接見ると、視力に影響を及ぼす場合があります。

音量を調節するときは

スーパーオーディオCDはCDと比べ、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。不用意に音量を上げてしまうと、音が聞こえないにもかかわらず、ノイズが発生したりアンプの保護回路が働いたり、スピーカーを破損したりするおそれがあります。
再生を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約1時間放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスクについて

市販のレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

本体を持ち運ぶときは

- 入っているディスクは、必ず取り出しておいてください。
- 必ずディスクトレイを閉めた状態にしておいてください。
- 必ず接続コードをはずしてください。コードをつないだまま持ち運ぶと、機器を破損するおそれがあります。
- 必ず本体を持って持ち運んでください。電源コード、ディスクトレイ、AMSダイヤルを持って運ぶと、機器の破損や落下によりけがの原因になることがあります。

ディスクを入れたときは

本体から発信音や機械音が聞こえることがあります。
これは、各ディスクに合わせて本体内部のサーボが自動調節を行ったときに出す音です。

ご注意

スーパーオーディオCDプレーヤーは、ディスクをローディングしてから再生が始まるまでの時間が、一般的なCDプレーヤーより長くかかることがありますが、故障ではありません。
これは、ディスクの種類の判別、サーボ調整、著作権保護の確認などを、再生するディスクごとに本体内部で自動的に行っているためです。

目次

準備する

再生する

その他の情報

特長

本機は、スーパーオーディオ2チャンネルおよび現行のCDの再生に対応しています。

- スーパーオーディオCDと現行CDのディスク信号の読み取りに、各々の専用波長のレーザーを持つ、ディスクリートデュアルレーザー光学ピックアップを搭載しています。
- 先進のサーボメカニズムにより、ディスクの情報を高精度に読み取ります。
- スーパーオーディオD/Aコンバーターの採用で、より高音質の音楽再生を実現しています。
- スーパーオーディオCDでは、最大255曲までのトラック/インデックス番号の収録が可能です。本機はこのフォーマットに対応しています。

使用前に知っておいていただきたいこと

- スーパーオーディオCD（2チャンネルエリア）およびDSDディスク再生時、本機のDIGITAL (CD) OUT COAXIAL端子、DIGITAL (CD) OUT OPTICAL端子のどちらからも音声は出力されません。
- 本機にディスクを入れた状態で電源を入れても、自動的にディスクは再生されません。そのため、本機の電源コードをタイマーなどに接続して、タイマー再生をすることなどはできませんのでご注意ください。
- 本機ではスーパーオーディオCDのマルチチャンネルエリアの再生はできません。

再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。

- スーパーオーディオCD（2チャンネルエリアのみ）
- CD
- DSDディスク

以下のディスクは本機では再生できません。

- CD-ROM（MP3、JPEGなど）
- DVD
- DTS-CD
- DualDisc

など

CD-ROMやDVDを入れると、エラーメッセージ「Cannot Play」や「No Disc」が表示されたり、再生しても音が出なかったりします。

DTS-CDとDualDiscについては、それぞれ次ページのご注意をご覧ください。

CD再生時のご注意

本機は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

CD-R/CD-RW再生時のご注意

CD-R/CD-RWドライブで録音されたディスクには、傷や汚れ、また録音状態や録音機の特性等が原因で、再生できないものがあります。また、すべての録音終了時に録音の終わりを記録するファイナライズ作業をしていないディスクは再生できません。このとき「Reading」が表示されたままだったり、「Cannot Play」が表示されます。

DTS-CDについてのご注意

DTS信号はDIGITAL (CD) OUT端子からのみ出力されます。出力されたDTS信号はDTS対応のデジタル機器でデコードして聞くことができます。

DualDiscについてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。
なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）の規格には準拠していないため、本機での再生は保証いたしません。

DSDディスクについてのご注意

DSDディスクとは、DSFファイルフォーマットにより記録されたディスクのことです。
本機では個人でDVD-ROM 互換のあるDVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWに記録したDSFファイルを再生できます。
詳しくは17ページをご覧ください。

スーパーオーディオCDについて

スーパーオーディオCDとは、現行のCDなどに用いられているPCM方式とは異なるDSD（ダイレクトストリームデジタル）方式で記録された、新しい高音質オーディオディスクの規格です。DSD方式は、CDの64倍にあたるサンプリング周波数で、1ビットの量子化の採用により、現行のCDをはるかに超える広い再生帯域と可聴帯域における十分なダイナミックレンジを確保し、原音をより忠実に再現します。

スーパーオーディオCDディスクの種類

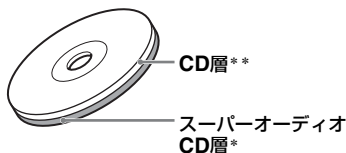
スーパーオーディオCDには、2種類のディスクがあります。

シングルレイヤーディスク

スーパーオーディオCD層*の単層ディスクです。

ハイブリッドディスク

スーパーオーディオCD層*とCD層**の2層のディスクです。お聞きになりたい層を選べます。片面読み出しなので、ディスクを裏返す必要はありません。

CD層**の内容は通常のCDプレーヤーでも再生できます。

* スーパーオーディオCDの高密度信号で記録された層。
** 既存のCDプレーヤーで読み取り可能な層。

スーパーオーディオCDの記録エリア

スーパーオーディオCD層には、2種類の記録エリアがあります。

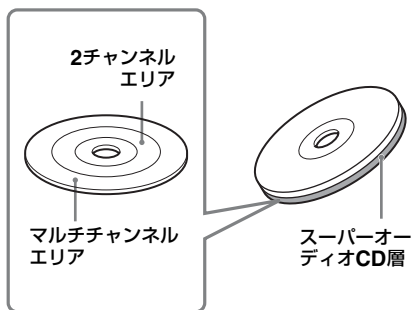
2チャンネルエリア

2チャンネルのステレオ用トラックを記録したエリアです。

マルチチャンネルエリア

5.1チャンネルまでのマルチチャンネルトラックを記録したエリアです。（本機では再生に対応していません。）

スーパーオーディオCD層に2チャンネルエリアとマルチチャンネルエリアの両方が記録されているディスク

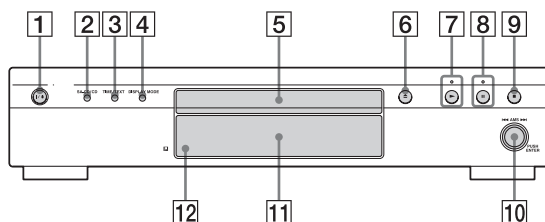
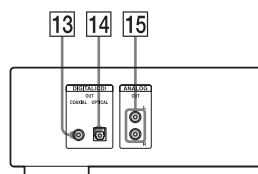
両方のエリアが記録されているディスクの場合、本機では2チャンネルエリアのみ再生が可能です。

各部のなまえとはたらき

各部のはたらきについて詳しくは、名称のあとの（　）内のページをご覧ください。
この取扱説明書では、主に本体での操作のしかたを説明しています。リモコンでも、本体と同じ表示のボタンを使って、同様に操作できます。

本体前面／後面

前面

後面

前面

1 **I/⏻（電源）スイッチ（12ページ）**
本機の電源を入切します。

2 **SA-CD/CDボタン（17ページ）**
ハイブリッドディスクの、スーパーオーディオCD層の再生とCD層の再生を切り換えます。

3 **TIME/TEXTボタン（13ページ）**
押すたびに、曲の再生時間やディスク全体の残り時間、TEXT情報を表示します。

4 **DISPLAY MODEボタン（13ページ）**
表示を消したり、つけたりします。

5 **ディスクトレイ（12ページ）**
ディスクを置きます。

6 **⏏ボタン（12ページ）**
ディスクトレイを開閉します。

7 **►ボタンとランプ（12ページ）**
ディスクを再生します。ランプは再生中に点灯します。

8 **❚❚ボタンとランプ（12ページ）**
再生を一時停止します。ランプは再生一時停止中に点灯します。

9 **■ボタン（12ページ）**
再生を停止します。

10 **I◄◄ AMS►►Iダイヤル（AMS:頭出し）（12ページ）**
回して聞きたい曲を選びます。押すと選んだ曲の再生が開始されます。

11 **表示窓（13ページ）**
ディスクや再生中の曲に関する情報を表示します。

12 **リモコン受光部🅁（8ページ）**
リモコンからの信号を受信します。

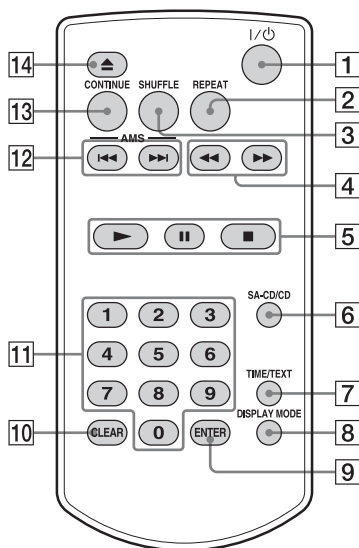
次のページへつづく

後面

13 DIGITAL (CD) OUT COAXIAL端子（10ページ）
MDデッキなど、同軸デジタル入力端子がある機器につなぎます。
スーパーオーディオCD（2チャンネルエリア）、およびDSDディスク再生時には音声は出力されません。

14 DIGITAL (CD) OUT OPTICAL端子（10ページ）
MDデッキなど、光デジタル入力端子がある機器につなぎます。
スーパーオーディオCD（2チャンネルエリア）、およびDSDディスク再生時には音声は出力されません。

15 ANALOG OUT L/R端子（9ページ）
ステレオアンプなど、アナログ入力端子がある機器にオーディオコードでつなぎます。

リモコン

1 I/⏻（電源）スイッチ（12ページ）
本機の電源を入切します。

2 REPEATボタン（16ページ）
リピート再生をします。

3 SHUFFLEボタン（16ページ）
シャッフル再生をします。

4 ◀◀/▶▶ボタン（12ページ）
再生中に押すと早送り/早戻しします。

5 ▶ボタン（12ページ）
❚❚ボタン（12ページ）
■ボタン（12ページ）
再生、再生一時停止、再生停止をします。

6 SA-CD/CDボタン（17ページ）
ハイブリッドディスクの、スーパーオーディオCD層の再生とCD層の再生を切り換えます。

7 TIME/TEXTボタン（13ページ）
押すたびに、曲の再生時間やディスク全体の残り時間、TEXT情報を表示します。

8 DISPLAY MODEボタン（13ページ）
表示を消したり、つけたりします。

9 ENTERボタン（15ページ）
ダイレクト選曲を行います。

10 CLEARボタン（16ページ）
リピート再生中やシャッフル再生中に押すと、ふつうの再生に戻ります。

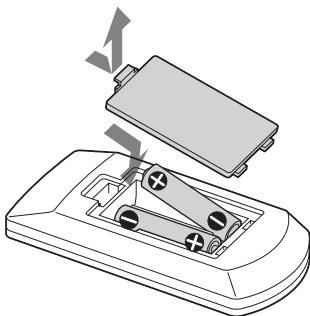
11 数字ボタン（15ページ）
ダイレクト選曲を行います。

12 AMS⏮/⏭（AMS:頭出し）ボタン（12ページ）
押して聞きたい曲を選びます。

13 CONTINUEボタン（16ページ）
シャッフル再生中に押すと、ふつうの再生に戻ります。

14 ⏏ボタン（12ページ）
ディスクトレイを開閉します。

リモコンに電池を入れる

付属の単4形乾電池2個を、イラストのように⊕と⊖の向きを正しく入れてください。リモコンを使うときは、本機のリモコン受光部 ℝ に向けてください。

ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコンを本体に近づけないと操作しづらくなったら、2個とも新しい乾電池に交換してください。

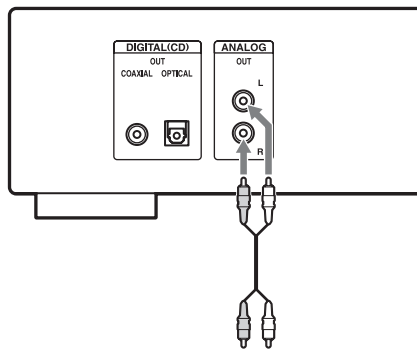
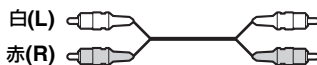
ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - 高温、多湿のところに放置しないでください。
  - 電池交換時などに、電池ケースに異物を入れないでください。
  - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 ℝ に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンが操作できないことがあります。

接続する

アナログ入力端子がある機器につなぐ

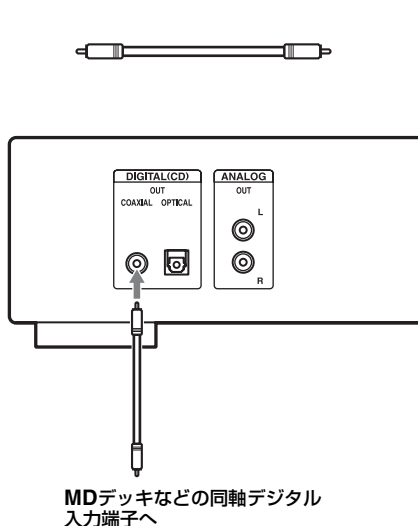
付属のオーディオ接続コードを使います。白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。
つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。
また、つなぐ前に機器の電源を必ず切ってください。

オーディオ接続コード（付属）

ステレオアンプやMDデッキなどのCD（またはスーパーオーディオCD）入力端子またはアナログ入力端子（L/R）へ

次のページへつづく

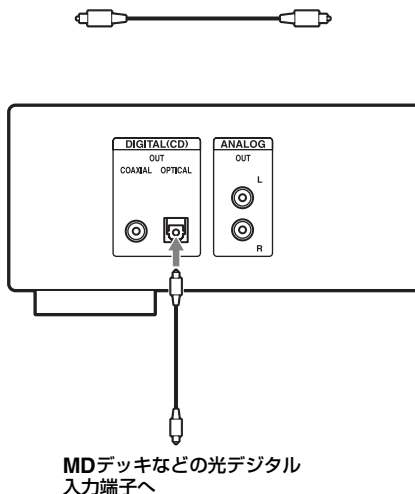
同軸デジタル入力端子があるデジタル機器につなぐ

同軸デジタル接続コードを使用して、DIGITAL (CD) OUT COAXIAL端子につなぎます。
つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。
また、つなぐ前に機器の電源を必ず切ってください。

同軸デジタル接続コード（別売り）

ご注意
DIGITAL (CD) OUT COAXIAL端子からはCDの音声のみ出力されます。スーパーオーディオCD（2チャンネルエリア）、およびDSDディスク再生時には音声は出力されません。

光デジタル入力端子があるデジタル機器につなぐ

光デジタル接続コードを使用して、DIGITAL (CD) OUT OPTICAL端子につなぎます。
光デジタル接続コードのプラグをカチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。光デジタル接続コードは折り曲げたり、ねじらないようにしてください。

光デジタル接続コード（別売り）

ご注意
DIGITAL (CD) OUT OPTICAL端子からはCDの音声のみ出力されます。スーパーオーディオCD（2チャンネルエリア）、およびDSDディスク再生時には音声は出力されません。

電源コードをつなぐ

電源コードを壁のコンセントに差し込みます。
電源コードをつないだときに、本機の電源を入れていなくてもリレーの動作音が聞こえることがあります。これは内部の状態を確認するために短時間、回路が動作しているためです。ご使用に影響はありません。

ご注意
不具合が起きたとき、すぐにコンセントから電源コードを抜ける場所に本機を設置してください。

出力端子と出力信号について

スーパーオーディオCD、CDの2チャンネル音声

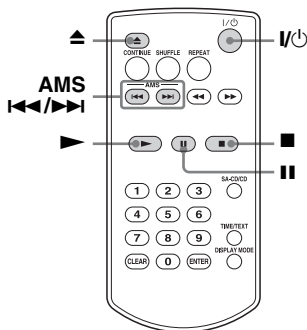
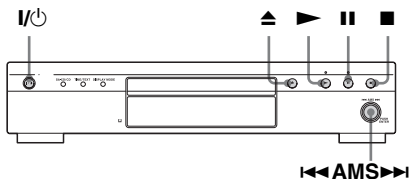
○：出力される
×：出力されない

	出力端子		
	ANALOG OUT L/R	DIGITAL (CD) OUT COAXIAL	DIGITAL (CD) OUT OPTICAL
CD	○	○	○
スーパーオーディオCD (2チャンネルエリア*)	○	×	×
DSDディスク	○	×	×

* 本機は、スーパーオーディオCDのマルチチャンネルエリアの再生には対応しておりません。

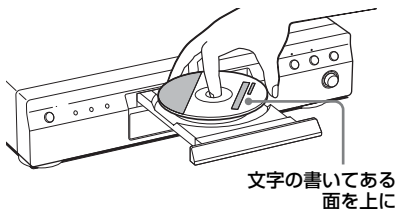
再生する

ディスクを再生する

基本的な再生操作について説明します。

1 アンプの電源を入れ、アンプのボリュームを最小にする。

2 アンプの入力切り換えで本機をつないだ機器の入力を選ぶ。

3 本機のI/⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。

4 ⏏を押してディスクトレイを開け、ディスクを置く。

5 ►を押す。

1曲目から再生が始まります。途中の曲から再生を始めたいときは、►を押す前に|◀◀ AMS ▶▶|ダイヤルを回し、曲番を選んでおいてください。

6 アンプで音量を調節する。

再生中の基本操作

操作	使うボタン
再生を止める	■
再生を一時停止する	❚❚
一時停止した再生を再開する	❚❚または►
曲を選ぶ	|◀◀ AMS ▶▶|ダイヤルを回す。
ディスクを取り出す	⏏

ご注意

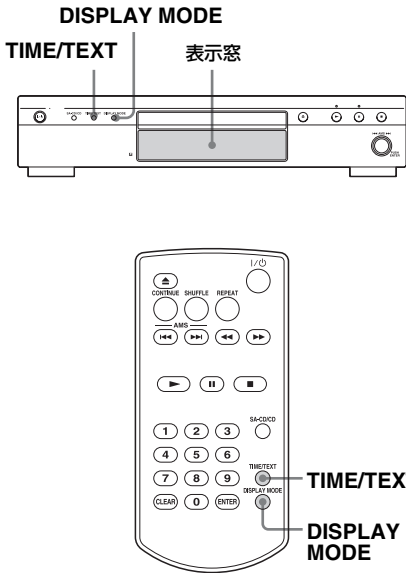
再生時には、ボリュームを最小の状態から徐々にあげてください。本機で再生される音楽信号には可聴帯域外の成分が含まれており、スピーカーや耳にダメージを与えることがあります。

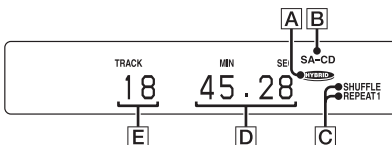
自動電源オフについて

本機は停止または一時停止時に無操作の状態が約30分経過すると、自動的に電源が切れます。

電源オフ（電源切）に移行する約2分前から表示窓に「AUTO STANDBY」のメッセージが点滅表示します。

表示窓の見かた

表示窓には、ディスクや再生中の曲に関する情報が表示されます。本機の状態によって、表示される情報は変わります。

ディスク装着時の表示

ディスクの総曲数や総再生時間が表示されます。

A ハイブリッドディスク表示
B ディスクの種類
C 再生モード
D 総再生時間
E 総曲数

TEXTの情報を見る

音楽信号の他に、ディスク名やアーティスト名などの情報を記録させたものがTEXT付きディスクです。本機ではTEXT情報として、ディスク名やアーティスト名、再生中の曲名を見ることができます。
TEXTの情報が14文字以上のときは、1度スクロールし、その後は最初の14文字が表示されます。

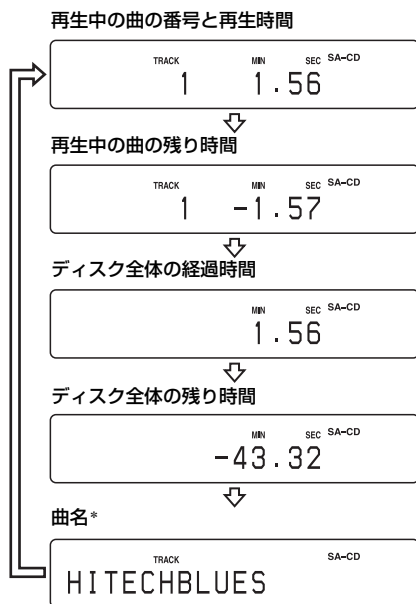
停止中のTEXT表示

TIME/TEXTをくり返し押す。
押すたびに、ディスク名またはアーティスト名が表示されます。アーティスト名の表示のときは「ART.」と表示されます。

* ディスク名やアーティスト名などの情報がない場合は、「NO TEXT」が表示されます。

次のページへつづく

再生中のTEXT表示

TIME/TEXTをくり返し押す。

* 曲名が入っていない場合は「NO TEXT」が表示されます。

ご注意

- 本機で表示できるTEXT情報は英数字のみです。日本語は表示されません。
- ディスクによっては、表示できない文字があります。
- 本機はTEXT情報のうち、ディスク名やアーティスト名、曲名のみを表示します。その他のTEXT情報は表示できません。

表示を消す

再生中に、DISPLAY MODEを押す。

押すたびに、表示が消えたりついたりします。

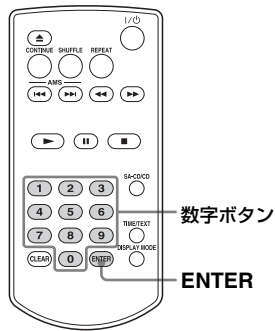
表示中にDISPLAY MODEを押すと、「Display Off」が表示され、約2秒後に消えます。表示が消えているときにDISPLAY MODEを押すと、「Display On」が表示され、約2秒後に表示が出ます。

停止中および一時停止中は、DISPLAYモードにかかわらず表示が出ます。

ちょっと一言

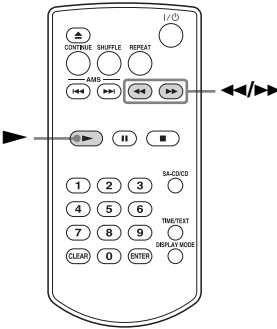
表示を消しているときに曲を選ぶなどの操作をすると、約2秒間表示がついて、その後再び消えます。

再生したい曲を探す（ダイレクト選曲）

再生を始める前に、曲を選ぶことができます。

曲番を数字ボタンで入力し、ENTERを押す。

例	押すボタン
8曲目を選ぶとき	8→ENTER
21曲目を選ぶとき	2→1→ENTER
103曲目を選ぶとき	1→0→3→ENTER

再生したい部分を探す（サーチ）

再生中に、曲の中の聞きたい部分を選ぶことができます。

再生中、リモコンの◀◀/▶▶を押す。

早送りするときは、▶▶を押します。早戻しするときは、◀◀を押します。押すたびに速さが2段階に変わります。

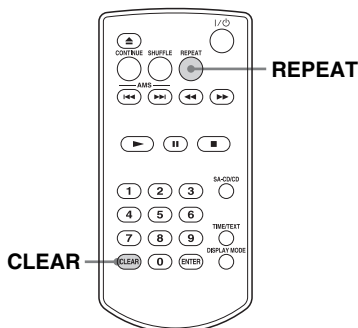
通常の再生に戻るには

▶を押す。

ご注意

サーチ中にAMSは操作できません。

くり返し再生する（リピート再生）

ディスクの全曲または1曲をくり返し再生します。シャッフル再生を選んだ状態でも、くり返し順不同に再生できます。

リモコンのREPEATをくり返し押す。

押すたびに「REPEAT」と「REPEAT 1」が切り換わります。
選ばれている設定が表示窓に表示されます。
REPEAT：全曲をくり返し再生します。
シャッフル再生を選んでいるときは、くり返すたびに曲順が変わります。
REPEAT 1：1曲だけをくり返し再生します。

リピート再生を解除するには

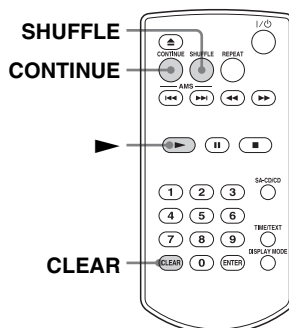
「REPEAT」や「REPEAT 1」が消えるまで、REPEATをくり返し押す。または、リモコンのCLEARを押す。

ご注意

リピート再生の設定は以下の場合に解除されます。

- ディスクトレイを開けたとき
- 本機の電源を切ったとき
- 電源プラグを抜いたとき
- スーパーオーディオCD層とCD層を切り換えたとき

ランダムに再生する（シャッフル再生）

順不同に全曲を1回ずつ再生します。

1 停止中に、リモコンのSHUFFLEを押す。

2 リモコンの►を押す。

全曲を1回ずつ再生し終わると停止します。

シャッフル再生を解除するには

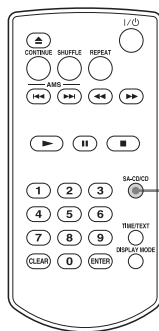
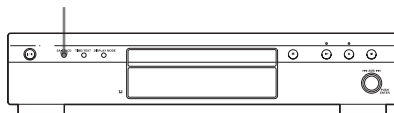
リモコンのCLEARまたはCONTINUEを押す。

ご注意

シャッフル再生の設定は以下の場合に解除されます。

- ディスクトレイを開けたとき
- 本機の電源を切ったとき
- 電源プラグを抜いたとき
- スーパーオーディオCD層とCD層を切り換えたとき

スーパーオーディオCD層とCD層を切り換える

スーパーオーディオCD層とCD層とが2層になったハイブリッドディスク（6ページ）の場合、本機はスーパーオーディオCD層（2チャンネルエリアのみ）が再生されるようになっています。以下の操作でCD層を選ぶことができます。

停止中に、SA-CD/CDを押す。

表示窓の「SA-CD」が「CD」に変わり、再生層がCD層に切り換わります。
もう一度、SA-CD/CDを押すと、スーパーオーディオCD層に切り換わります。
ディスクを入れ換えると、それまで選んでいた再生層はクリアされます。

ちょっと一言

スーパーオーディオCD層とCD層の切り換えは、ディスクを裏返す必要はありません。

DSDディスクを再生する

本機では、個人でパソコンなどを使ってDSFファイルフォーマットで記録したディスクも再生できます。

再生できるDSFファイルの条件

以下の条件を満たさないDSFファイルは、本機で正しく再生できないことがあります。

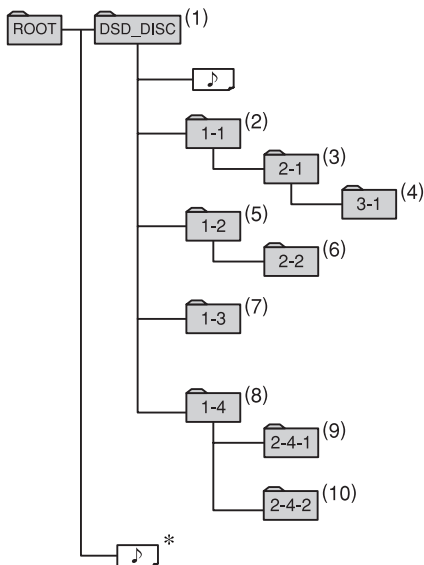
- ディスク：DVD-ROM互換性のあるDVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW
- ファイルの拡張子：dsf
- フォルダーの種類：DSD_DISCフォルダー
- ひとつのファイルの最大容量：4GB以下
- 音声：2チャンネル
- ファイル数：1フォルダー内で最大150ファイルまで
- フォルダー数：1ディスク内で最大200フォルダーまで
- 階層：8階層まで
- サンプリング周波数：2.8224MHz

ご注意

DSDディスクの再生では、ファイルにアクセスするたびにパスを検索する必要があります。このため、ディスク内のフォルダー数が多かったり、フォルダー階層が深かったり、また、ひとつのフォルダー内のファイル数が多いと、ファイルへのアクセスに極端に時間がかかることがあります。このような場合は、DSFファイルをDSD_DISCフォルダー内に直接入れることと、ファイル数を20ファイル以下にすることを推奨します。

次のページへつづく

ディスク内のデイレクトリー構成の例

以下のように、（1）から（10）の順に、各フォルダー内のDSFファイルを再生します。フォルダーを再生する順番は、本機の表示窓の「ALBUM」に表示されます。また、ファイルを再生する順番は「TRACK」に表示されます。

* ファイルにdsfの拡張子があっても DSD_DISCフォルダーに入っていない場合は再生しません。

再生について

DSFファイルの再生はスーパーオーディオCDやCDと同様に行えます。ただし、以下の操作はできません。

- ダイレクト選曲およびアルバムの選択
- シャッフル再生
- SA-CD/CDの切り換え
- アルバムごとのリピート再生
- ディスクに入っているDSF以外のファイルの再生

表示について

再生中にTIME/TEXTを押すと、以下が表示されます。

アルバム番号/トラック番号/
トラック経過時間
↕
ファイル名

停止中は総アルバム数が表示されます。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 文字の書かれていない面（再生面）に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。

- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用しますと、本機の故障の原因となることがあります。
- 中古／レンタルCDなどでシールやのりが付着しているディスクは使用しないでください。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

ディスクの置きかた

ディスクを入れるときは、確実にディスクトレイにのせてください。ディスクがずれていると、本機やディスクを破損する場合があります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽くふきます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

再生が始まらない。

➔ ディスクが入っているか確認してください。
➔ 文字の書いてある面を上にしてディスクトレイにディスクを置いてください。
➔ ディスクがななめに入っていないかなどを確認して、ディスクを正しい位置に置いてください。
➔ ディスクが汚れていないか確認してください。
➔ 結露しているので、ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約1時間放置し、再度電源を入れ直してから再生を始めてください（2ページ）。
➔ 本機で再生できるディスクか確認してください（4ページ）。

プレーヤーの電源が自動的に切れる。

➔ 本機は停止または一時停止時に無操作の状態が約30分経過すると、自動的に電源が切れます（自動電源オフ）。
電源オフ（電源切）に移行する約2分前から表示窓に「AUTO STANDBY」のメッセージが点滅表示します。

リモコンで操作できない。

➔ リモコンと本体との間の障害物を取り除いてください。
➔ 本体のリモコン受光部 に向けて操作してください。
➔ リモコンの乾電池を交換してください。

音が出ない、途切れる。

➔ 接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
➔ アンプを正しく操作しているか確認してください。

DIGITAL (CD) OUT端子から音が出ない。

➔ スーパーオーディオCD（2チャンネルエリア）、およびDSDディスクの音声はDIGITAL (CD) OUT端子から出力されません（10ページ）。

ディスプレイの表示がつかない。

➔ DISPLAYモードが「Display Off」になっている可能性があります。DISPLAY MODEを押してください（14ページ）。

電源を入れたあとに本機の中からカタカタと音が聞こえる。

➔ ディスクの種類や判別の調整を行っています。故障ではありません。

これらの処置をしても正常に動作しないときは

上記の内容を確認しても問題が解決せず、正常に動作しないときや、上記以外の問題が発生したときは、一度電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、数分待ってから改めて電源コードを接続してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型式：SCD-XE800
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

主な仕様

スーパーオーディオCD再生時

再生周波数範囲
　2 Hz～100 kHz
周波数特性　2 Hz～40 kHz（−3 dB）
ダイナミックレンジ
　100 dB以上
全高調波ひずみ率
　0.0035%以下
ワウ・フラッター
　測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下

CD再生時

周波数特性　2 Hz～20 kHz（±0.5 dB）*
ダイナミックレンジ
　96 dB以上*
全高調波ひずみ率
　0.0039%以下*
ワウ・フラッター
　測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下*

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

出力端子

端子名	端子形状	出力レベル	負荷インピーダンス
ANALOG OUT L/R	ピンジャック	2 Vrms（50 kΩ時）	10 kΩ以上
DIGITAL (CD) OUT OPTICAL*	角形光コネクタージャック	−18 dBm	（発光波長660 nm）
DIGITAL (CD) OUT COAXIAL*	同軸コネクタージャック	0.5 Vp-p	75 Ω

* CDの音声のみ出力

電源・その他

電源　AC 100 V、50/60 Hz
消費電力　20 W
最大外形寸法　430×95×295mm（幅／高さ／奥行、最大突起部含む）
質量　約 3.5 kg
レーザーの仕様
　放射時間：連続
　レーザー出力*：44.6 μW 未満

* この出力値は、7mmの開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より200mmの距離で測定したものです。

付属品

オーディオ接続コード
　ピンプラグ×2（赤/白）（1）
リモートコマンダー
　RM-ASU097（1）
乾電池　単4形（R03）（2）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
安全のために（1）
保証書（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 自動電源オフ機能搭載

索引

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	**修理相談窓口**
フリーダイヤル ··········0120-333-020	フリーダイヤル ···········0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ··········0466-31-2511	携帯電話·PHS·一部のIP電話 ···········0466-31-2531 ※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation　Printed in Malaysia